

財政運営の基本的計画を策定

本市は、2月に「八千代市財政運営の基本的計画（平成28年度～37年度）」を策定しました。今後は、本計画に定めた財政目標を達成することで財政の健全化を図ります。また、投資的経費や新規事業の原資を生み出すことで、市民サービスの維持・向上が安定的に図られる持続可能な自治体を目指し、住み続けたいまち八千代の実現に努めていきます。

ここでは計画の概要をお知らせします。詳しい内容や用語解説は市ホームページをご覧ください。お問い合わせは財政課 483-1151（代表）へ。

計画の基本的な考え方

計画期間は、28年度～37年度の10年間です。期間中の「中長期財政収支見通し」をもとに、健全な財政運営の推進に向けた各種「財政目標値」を設定し、その目標達成に向けた取り組みを推進します。

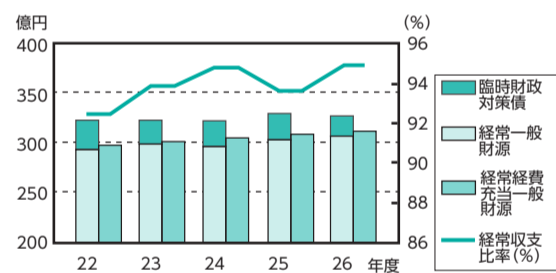
28年度～32年度の5年間は、「第4次総合計画後期基本計画」との整合を図ります。また、財政目標の達成に向けては、「第2次行財政改革大綱後期推進計画」や「その他の市の計画」とも連携を図ります。

財政の現状と課題

財政の現状

本市の財政の現状は、歳出面では、近年の経常収支比率の数値が示すとおり、財政の硬直化が進行しているといえます（図1）。要因には、総合グラウンド、中央図書館・市民ギャラリーの建設や、小・中学校施設の耐震化といった、大規模建設事業（普通建設事業費）などが挙げられます。

■図1 臨時財政対策債、経常一般財源、経常経費充当一般財源、経常収支比率の推移

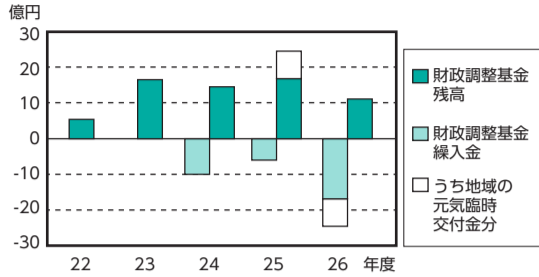


歳入面では、自主財源の根幹をなす市税が、23年度以降、26年度まで微増で推移しています。要因には、景気回復に伴う個人所得や企業収益の増などによる個人住民税と法人住民税の増、債権管理課の設置などによる徴収強化の取り組みが挙げられます。

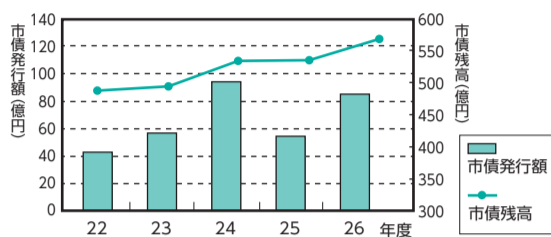
繰入金では、一般財源の不足を補うため、近年、財政調整基金（貯金）から多額の繰り入れを行っています（図2）。

市債は、近年の大規模建設事業の実施などに伴い、増加基調で推移しています（図3）。

■図2 財政調整基金からの繰入額及び財政調整基金残高の推移



■図3 市債発行額と市債残高の推移



財政の課題

歳入面

- ・新たな収入の確保が進んでいない
- ・財産の有効活用が進んでいない
- ・上昇基調である市税徴収率のさらなる向上
- ・市債発行額が増大している
- ・多額の基金繰入れを前提とした当初予算編成が続いている

歳出面

- ・人件費、扶助費、公債費などの経常経費が増加
- ・補助金・扶助費の見直しが進んでいない
- ・施設の維持管理費（物件費）の上昇
- ・指定管理者施設の維持管理費（物件費）に含まれる人件費相当分等の経費削減ができていない

中長期財政収支見通し

中長期財政収支見通しは、持続可能な財政運営の確立に向け、限られた財源を効果的・効率的に配分し、計画的に事業を実施するための基礎となる資料です（表1）。

今後、最新の情報をもとに、決算確定後と当初予算成立後の年2回のローリングを行い、予算編成の基礎資料などに活用するほか、市民へ公表し、財政

■表1 中長期財政収支見通し（第1回目ローリング）一般会計

（単位：百万円）

	27年度 当初予算	28年度 当初予算(案)	29年度 当初予算見込額	30年度 当初予算見込額	31年度 当初予算見込額	32年度 当初予算見込額	33年度 当初予算見込額	34年度 当初予算見込額	35年度 当初予算見込額	36年度 当初予算見込額	37年度 当初予算見込額
歳入	56,071	55,990	50,860	50,713	50,995	51,289	51,044	51,507	51,737	51,502	51,807
歳出	56,071	55,990	50,589	50,764	51,076	51,300	51,473	51,731	51,506	51,507	51,690
収支	0	0	271	△51	△81	△11	△429	△224	231	△5	117
臨時財政対策債	1,895	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600

運営の透明性を図ります。

中長期財政収支見通しは、歳入は歳入科目ごとに、歳出は性質ごとに条件を設定し、推計しています。

目指すべき財政目標

目標値など

本市が抱える財政課題に対応し、持続可能な財政運営を確立するため、目標とすべき財政指標を表2のとおり設定します。

■表2 普通会計決算の目標値

	32年度末	37年度末	26年度 決算値 【参考】
経常収支比率	改善	90.0%以下	94.9%
公債費負担比率	15.0%以下	14.0%以下	14.8%
財政調整基金残高	標準財政規模の5.0%以上	標準財政規模の10.0%以上	3.6%
市債残高(※)	540億円以下	500億円以下	570億円

※27年度12月補正予算後の市債残高見込みは約581億円。標準財政規模とは、地方公共団体の標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示す指標。

財政目標の達成に向けて

財政目標達成のため、「八千代市第2次行財政改革大綱後期推進計画」に掲げる方策を着実に推進するなかで、特に、同推進計画に掲げる次の取り組みに留意した財政運営を行います。

◇歳入確保の取り組み

- ・新たな収入の確保の推進
- ・市税徴収率の向上
- ・普通財産の売却、有効活用
- ・債権の適正管理

◇歳出抑制の取り組み

- ・経費節減の徹底
- ・定員管理の適正化
- ・補助金・扶助費の見直し
- ・給与の適正化

◇その他の取り組み

- ・将来負担の適正管理
- ・基金の適正管理

財政指標の類似団体比較

26年度普通会計決算における関東地方の人口15～25万人の類似団体中、本市の主な財政指標などのランキングは次のとおりです。

経常収支比率	19位 / 21団体
公債費負担比率	18位 / 21団体
財政調整基金残高	20位 / 21団体
市債残高	20位 / 21団体
財政力指数	8位 / 21団体

広告